

中華人民共和国ポリオ対策プロジェクト 合同評価報告書

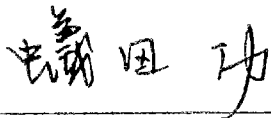
国際協力事業団が組織し、(財)国際保健医療交流センター 蟻田功理事長を団長とする日本側終了時評価調査団(以下、「調査団」という。)は、プロジェクトの最終年度にあたり、プロジェクト活動の評価を行い、もって今後の技術協力の対応方針を検討するため、1999年9月14日から22日までの日程で中華人民共和国(以下、「中国」)を訪問した。

調査団は、中華人民共和国滞在期間中、プロジェクトの評価を実施するため、業務の進捗状況及び具体的協力内容につき、中国衛生部をはじめとする中国側関係者と意見交換ならびに一連の協議を実施した。

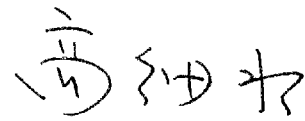
以下、協議の結果を別紙のとおり取りまとめ、調査団と中国側関係者との間で確認するものである。

1999年9月21日

於北京市



蟻田 功
評価調査団団長
国際協力事業団
日本国



高 細水
国際合作司副司長
衛生部
中華人民共和国

別紙

1. 合同評価報告書の確認

1.1 調査団と中国衛生部は、合同でとりまとめた評価報告書を確認した。

1.2 合同評価報告書における評価結果は、次のとおりである。

- (1) プロジェクトは期待された成果を十分にあげた。その結果、プロジェクト目標は本プロジェクトの終了時まで十分達成されると予想される。
- (2) 投入は概ねタイミングよく適切に行われ、効率的にプロジェクトは実施された。
- (3) プロジェクトの効果は、中国全国に波及している。
- (4) プロジェクト計画は妥当であり、中国のポリオ対策に十分有効である。
- (5) 自立発展性は十分なレベルに達した。

1.3 総括

日本政府と中国政府中国政府双方の努力と友好関係により、プロジェクトは効率的に実施され十分その目標を達成した。その結果、中国政府はポリオ対策の活動を維持できるものと判断される。

2. 提言

プロジェクトの成果を確実にするために、中国政府は、引き続きプロジェクトで達成したポリオ実験室診断技術レベルの維持、ハイリスク地域を中心とした AFP サーベイランスの維持強化等を図る必要がある。

以上

別添: 合同評価報告書

塚田

(15)

中華人民共和国ポリオ対策プロジェクト 合同評価報告書

日本 国際協力事業団(JICA)

中華人民共和国 衛生部

1999年9月21日

中華人民共和国北京市

1 評価概要

1-1 プロジェクトの評価実施概要

本プロジェクトは、1999年12月に協力期間を終了するところ、これまでの協力について当初計画に照らし、プロジェクトの活動実績、管理・運営状況、技術協力状況などについて評価(各項目ごとの目標達成度の判定等)を行い、今後の協力量針について日中双方で協議をする。

また、評価結果から教訓および提言などを導き出し、今後の協力の在り方や実施方針改善に資する。

1-2 評価の手法

当初計画及び1997年7月の巡回指導調査団派遣時に日中双方で合意したProject Design Matrix (PDM) に基づき、プロジェクトの効率性、目標達成度、インパクト、計画の妥当性、自立発展性などについて調査した。

1-3 評価5項目

評価は、以下の5項目に従って実施される。

(1)目標達成度(Effectiveness):プロジェクトの実施により、当初設定されていた「プロジェクト目標」がどこまで達成されたかを検討する。

(2)効果(Impact):プロジェクトが実施されたことにより生じる直接的、間接的なプラス・マイナスの効果を検討する。計画当初に予想されていない効果も含む。

(3)効率性(Efficiency):プロジェクトの「投入」から生み出される「成果」の程度を把握し、手段・方法、期間・費用の適切度を検討する。

(4)計画の妥当性(Relevance):評価時においてもプロジェクト目標が有効であるかどうかを検討する。

(5)自立発展性(Sustainability):プロジェクトの成果が持続可能かどうかを把握し、併せて実施機関の自立度を運営管理面、財務面、技術面、その他の諸側面から検討する。

1-4 参考資料

1)R/D

2)PDM

3)統計

4)実績 等

2 プロジェクトの背景および概要

2-1 プロジェクトの概要

ポリオに罹患した小児は生涯にわたり身体的、社会的なハンディキャップを背負うことになる。WPR(WHO 西太平洋地域)に属する中国では1970年代より予防接種事業(EPI)が本格的に始まり、ポリオ患者も次第に減少した。しかし、EPIの活動が不十分であったため、予防接種から漏れた子供の急激な増加によって1989年よりポリオが再び流行した。

一方、1988年5月WHOは、2000年までに全世界からポリオを根絶する構想を採択し、これを受け中国政府は同国からポリオを根絶するためのプログラムを1988年に開始した。

日本国政府は、WHOの支援要請に呼応し、中国のポリオを根絶するため1990年より単発専門家を派遣して協力を開始していたが、上述の経緯のもと、中国政府はポリオ対策の一層強力な推進のため、日本国政府にプロジェクト方式技術協力の要請をおこなった。

本プロジェクトは、山東省においてポリオ対策のモデル活動として始まり、協力は周辺4省(河北、河南、江蘇、安徽)へと拡大した。また、全国的な実験室診断システム作りの一環として中国予防医学科学院にある国家ポリオ実験室の強化を支援した。さらに無償資金協力によって、コールドチェーン機材や全国ワクチン一斉投与(NID, SNID)のための、ポリオワクチン(OPV)の供与(1993年より毎年)などもなされた。この間、全国的にポリオ流行は順調に終息し、北方5省ではAFPサーベイランスも著しく進展するなど、一定の成果があったとの評価から、北方地域での活動を縮小する一方、1995年後半からは北方5省での成果を役立てることを目的として、南方5省(四川、雲南、貴州、江西、広西)での協力が開始された。そして、1996年6月の合同評価において、プロジェクトはさらに1996年12月4日から3年間(1999年12月3日まで)延長されることとなった。

2-2 プロジェクト延長協力期間

3年間、1996年12月4日～1999年12月3日

2-3 プロジェクト対象地域

南方ハイリスク省を中心とした中国

2-3 プロジェクトの目標および期待される効果

PDM 参照

2-4 実施機関

中国衛生部、日本国国際協力事業団

3 プロジェクト達成度

3-1 投入

<日本側>

長期専門家 5名、短期専門家 35名

研修員受入 38名

機材供与 2.25億円(約1,500万元)

(無償資金協力による機材供与は除く。)

<中国側>

中国側投入人員 203名

(衛生部、中国予防医学科学院、南方6省:カウンターパート、一般事務、
通訳、運転手を含む)

経費投入(ワクチン購入費、コールドチェーン運営費、業務費等)3,460万元
(約5.19億円)

衛生部、南方6省の投入実績。地区以下の投入実績は含まず。

3-2 活動実績

成果1に関して、

(1)訪問指導:表9、10、11。

(2)中堅技術者養成によるワークショップセミナーを開催:表12、13、資料1、2。

(3)AFP患者の診察:表14。

成果2に関して、

(1)省ポリオ実験室に対する現状調査とウイルス学的診断の技術指導:表15、資料4。

(2)中堅技術者養成による省ポリオ実験室技術者のワークショップセミナー開催:表
12、13、資料1、2。

(3)日本における研修による省ポリオ実験室技術者の育成:表16、資料5。

成果3に関して、

(1)省ポリオ実験室の機材の整備、導入:資料6

(2)省ポリオ実験室への試薬、消耗品供与

成果4に関して、

(1)国家ポリオ実験室の検査業務の助言・指導:国家ポリオ実験室に対し、長期専門

家が日常業務において実施した。

(2)日本における研修による国家ポリオ実験室の若手技術者の養成：表 16

成果 5 に関して、

国家ポリオ実験室の機材の整備、導入：資料 6。

成果 6 に関して、

(1) 国家ポリオ実験室に対して実験室ネットワーク構築のアドバイス：

(2) 全国各省実験室に対する巡回指導：

(3) 中堅技術者養成による全国実験室技術者のワークショップセミナーの開催：

前述 2(1)(2)(3), 3(2), 4(1)(2), 5(1)と同様。

成果 7 に関して、

(1) ワクチン接種に関する啓蒙・技術指導：表 9、10。

(2) セミナー・会議(南方 6 省連合会議)における啓蒙・技術指導：表 12、13、資料 1、2。

(3) ワクチン接種率調査・指導：表 14。

成果 8 に関して、

(1) ポリオ教育宣伝用資料：教育用テキスト 10,000 部(中文)(98 年 2 月 12000 元)、プロジェクト広報用パンフレット 8,000 部(日中 4,000 部、英中 4,000 部)(98 年 3 月 10 万元)、教育用ビデオ 200 部。

(2) 中央政府に対するポリオ根絶計画全体のアドバイス：月例会議、合同委員会などの機会に行った。

(3) WHO, UNICEF 等国际機関と連携した各省レビュー、啓蒙普及活動：表 17、資料 3。

(4) 各レベルの防疫担当者に対するポリオ根絶活動に関する啓蒙普及活動：表 9、10、13、資料 1、2。

3-3 成果

成果 1

AFP サーベイランス指標

・AFP 報告率

南方 6 省において 96 年以降 AFP 報告率は目標値である 10 万分の 1 以上であり達成された。(表 2)

・便検体適時採取率

南方 6 省のうち重慶、貴州を除く 4 省において 98 年の便検体適時採便率は 80%以上であった。重慶、貴州はそれぞれ 73%、79%であり、一部達成にとどまった。(表 3)

成果 2、3

南方各省のポリオ実験室診断の指標は改善したが、一部地域で十分な改善がなされていない。省実験室のウィルス分離結果適時報告率について、南方 6 省のうち重慶を除く 5 省において 98 年のウィルス分離結果適時報告率は 80%以上であった。重慶は 69%であり、一部達成にとどまった。全国平均では 95 年 64%、96 年 78%、97 年 93%、98 年 94%と徐々に改善している(表 4)。また、省実験室がポリオ陽性標本を国家実験室に 30 日以内に送付する率に関し、南方 6 省のうち重慶、貴州を除く 4 省において 98 年の陽性標本を国家実験室に 30 日以内に送付する率は 80%以上であった。重慶、貴州はそれぞれ 67%、76%であり、一部達成にとどまった。全国平均では 95 年 58%、96 年 66%、97 年 67%、98 年 77%と徐々に改善している。(表 5)

成果 4、5

98 年 6 月に行われた WHO 実験室レビューの総合判定で Regional Lab として「合格」を得た。(表 6)

成果 6

南方 6 省を含む全国 31 省のポリオ実験室診断の指標の改善および、ネットワークの中心である国家ポリオ実験室の機能が向上した。

成果 7、8

高いレベルのワクチン接種率が保たれた。98 年、ポリオワクチン報告接種率(定期接種)は、南方 6 省において 85%以上であった(表 7)。また、ポリオワクチン報告接種率(NID,SNID) 南方 6 省において 98/99 の接種率は 95%以上であった。(表 8)

4 評価 5 項目による評価

4-1 目標達成度(Effectiveness)

(1)プロジェクトの各「成果」が「プロジェクト目標」達成につながったその度合い。

<AFP サーベイランス>

活動 1-1,2,3 により AFP サーベイランスにかかわる人材(病院の医師、防疫センターのスタッフ)の知識・技術が向上し、ポリオ根絶活動の意義・内容を十分理解することにより、AFP サーベイランスの指標が WHO の基準に達するために、大きく寄与した。しかし、ハイリスク地域において一部達成しない地域があった。AFP サーベイランスの担当者の配置替え、サーベイランスにかかる予算(患者調査や便検体の運搬などの費用)不足等が阻害要因と考えられる。

<実験室診断>

活動 2-6 により省ポリオ実験室および国家ポリオ実験室の設備とともに、技術者のウイルス診断技術が向上した結果、実験室診断の指標が WHO の基準に達した。しかし、ポリオ実験室の担当者の配置替え(南方 6 省から日本で研修した 12 人中 4 人が現在違う業務に就いている)、実験室業務にかかる予算不足等がみられる地域があり、実験室の維持管理に不十分な点が見受けられ、プロジェクトで達成された水準を維持することが困難な状態となっている。また、特に疫学データの交換などにおいて疫学部門との連携に不十分な省もある。

<高いレベルのワクチン接種活動>

成果 7 の結果、ワクチン接種活動が高いレベルに達した。ワクチン接種にかかる予算(ワクチンの運搬、コールドチェーンの維持管理などの費用)不足等がみられる地域では、そのレベルを維持することに多少の困難が予想される。また、流動人口(戸籍の記載場所以外に住んでいる人)に対するワクチン接種活動が十分行えないなどの今後も課題となる。ワクチン接種活動が十分でない地域は SNID を継続する必要がある。

(2)プロジェクトの各活動が成果につながった度合い。

すべての活動は、阻害要因もなく、各々の成果を得るのに大いに貢献した。

4-2 効果

(1) 直接的効果

プロジェクト目標達成により、ポリオ根絶という上位目標の達成がより確実になった。またポリオ関連のサーベイランス、実験室診断技術だけでなく、他の疾患のサーベイランスや実験室診断技術のレベル向上にも効果があった(例えば AFP サーベイランスの成果は、1991 年 1 月に中国全体で開始された麻疹、新生児破傷風のサーベイランスに役立った。)。また防疫センターのスタッフは AFP サーベイランスの一環で 10 日毎に病院を訪問するなど、病院と防疫センターとの関係が密になった。

(2)間接的効果

1990 年の報告患者数で 5000 人以上いたポリオ患者がいなくなり、経済的・社会的負担が軽減された。97 年の報告では 1 人のポリオ患者の治療には平均 1621 元(24300 円)、リハビリには 921 元(13800 円)かかると言われており、またポリオ患者を養うための家族の経済的負担も大きい(中国計画免疫 1997 年 10 月号第 3 巻)。ポリオ患者がいなくなったことで、間接的に貧困の改善に寄与している。

しかし、ポリオ患者が減少した結果、ポリオ対策への認識が低下し、レベル維持への推進力が低下する懸念が出てきた。

4-3 効率性(Efficiency)

(1)投入のタイミングの妥当性

日中双方の投入がタイミングよく実施された。

(2)投入と成果の関係

中国側の投入に関し、サーベイランスの際の中国側ローカルスタッフの経費の負担が不十分な場合もあったが、成果は達成された。

実験室に係わる研修員の受入れは、チベットを除く30省全てから少なくとも1名(南方6省は2名ずつ)行われた。チベットには、全国実験室セミナーと国際機関合同の訪問指導(98年8月、99年4月(資料3))で対応した。これによって中国全体のポリオ実験室の機能が強化され、国家ポリオ実験室を中心とする全国ポリオ実験室ネットワークの構築・機能強化に寄与した。

(3)無償等他の協力形態とのリンケージ

ポリオ対策にはワクチンは必須であるが、WHO、UNICEF、アメリカ CDC (Center of Disease Control and Prevention)、Rotary、国際保健医療交流センターと連携して、SNIDに日本国政府は必要なポリオワクチンを毎年供給した。このSNIDは中国のポリオ野生株根絶に大きく貢献した。

4-4 計画の妥当性

(1)上位目標の妥当性:

ポリオ根絶計画は中国政府(国務院)が1992年にその必要性を宣言し、WHOの同構想を支持する形で、世界にその達成を約束した。ポリオは小児の健康に対する脅威であり、その流行によってもたらされる経済的、社会的損失は計りしれない。ポリオ根絶は人民にとってポリオの脅威からの解放と医療費の節約を意味することになる。

(2)プロジェクト目標の妥当性

ポリオ根絶の達成には免疫活動、AFPサーベイランス、ウイルス実験室診断という明瞭な三つの戦略があり、全て妥当なプロジェクト目標である。また、明確な戦略であるため、各レベルの関係機関は比較的良好に対応できた。

(3)上位目標、プロジェクト目標、成果及び投入の相互関連性に対する計画設定の妥当性

これらの間に認めるべき齟齬は生じなかったし、計画は全体として妥当であった。また、プロジェクトの活動規模を拡大するにあたり、日中双方の投入が適切に行われた。

4-5 自立発展性

(1)制度的側面

(A) 政策: 中国衛生部はじめ省政府は、ポリオ根絶を重要な政策としており、政治的支持を続けている。

(B) 人員: スタッフは基本的には定着しているが、担当部署から離れてしまったスタッフも一部では見受けられる(南方6省のポリオ実験室技術者で、日本で研修した12人のうち4人はすでに他の部署に移っている)。省の技術者が衛生部の委託を受け、他の省に指導に行ったり、WHOのスタッフとして他国に指導に行ったりするなど、指導的立場になりつつあるスタッフも存在する。

(C) 運営: 中央レベルでは、衛生部、中国予防医学科学院、EPI諮問委員会、国際機関(WHO, UNICEF)の連携がとられている。中堅技術者養成事業で支援した技術セミナー、会議の一部は引き続き中国衛生部を中心として開催、運営される予定である。しかし、高い技術レベルを維持するため、省の実験室診断・一部AFPサーベイランスに関する技術指導は引き続き国際機関の支援が必要である。

省のポリオ根絶活動は衛生庁が指揮し、各レベルの衛生局、防疫センター、病院等の医療施設が実行する体制が確立されている。

(2)財政的側面

基本的なオペレーションコストは中国側が負担しているが、AFPサーベイランスで便検体を運搬する費用は、1995年より国際機関から毎年14万ドルの支援を中国全体で受けている。

SNIDで使われるワクチンは今しばらく海外からの支援が必要である。定期接種に必要なワクチンは自給できている。

既述したとおり、供与機材および携行機材、無償資金協力で整備した機材により必要な機材は整備されたが、中国側はそのメンテナンスに責任を持つための予算確保などが必要と思われる。

(3)技術的側面

上記の「人員」で述べたように、基本的に人員は定着しており、その技術も定着していると言える。またサーベイランスに関しては、各省は独自にセミナーを開催し、更に下位組織の技術者の養成をしている。本プロジェクトで供与された機材の保守、管理も基本的に適正に行われている。

5 総括

プロジェクトは効率的に実施されその目標を達成した。その結果、プロジェクトの終了後も、中国政府の自助努力により継続してポリオ対策の活動は続けられると判断される。

日中双方の努力による成果は、以下のとおりである。

- (1)サーベイランスシステムの強化(特に病院を対象とする積極的な麻痺患者の検索:
Active Surveillance on AFP)
- (2)ポリオ実験室診断ネットワークの整備
- (3)SNID の評価および助言
- (4)輸入発生対策の実地指導

中国では、1994 年の発生報告を最後に、輸入患者を除いて今までポリオ患者発生の報告はない。これは、まさに、中国政府の国家努力と日本、WHO などの支援の結果である。しかし、ミャンマー、ネパール、インド、パキスタン、バングラデシュ、タジキスタンなど、中国の周辺国ではいまだ流行が継続しているので十分な注意が必要である。

今後も、中国ポリオ対策は再流行を防ぐため継続すべきであるが、本プロジェクトの結果、中国のシステム、スタッフの能力が継続遂行のために十分樹立されたと考えられるので、ここに本プロジェクトを終了する。

分野別総括

<ポリオ実験室>

ポリオ実験室診断技術向上のためのプログラムはスムーズに行われた結果、国家実験室および省実験室の実験室診断の指標が WHO の基準に達した。また、単に指標に達したのみでなく、大部分の省では膨大な数の検体の分離同定に関する対処能力が著しく向上した。

しかし、一部のポリオ実験室はまだいくつかの指標に達していないし、また、河南省、四川省など技術的レベルを維持することが困難な省もあるので、今後も更なる努力が必要である。

<サーベイランス>

一部を除き AFP サーベイランスの指標は WHO の基準に達した。これらの活動は、多くの地区、県レベルにまで浸透した。しかし、ポリオ野生株の輸入が強く懸念される地域などのハイリスク地域では、今後もさらにアクティブ・サーベイランスを含むサーベイランス活動を強化する必要がある。

<ワクチン接種活動>

国境周辺のポリオ野生株の輸入が強く懸念される地域では、流動人口などのワクチン接種が不十分な人口の存在が指摘されており、今後も定期接種および SNID によるワクチン接種の維持強化に努める必要がある。

<緊急対策>

サーベイランスは常にアクションのためであることを念頭におき、輸入症例の発生に対し、緊急の措置をとれるよう始動体制を整えておくことが大切である。

6 教訓と提言

<教訓>

本プロジェクトの経緯を振り返り、また、その成果を考えると以下のような特徴が浮上する。そしてこれらは今後、保健医療プロジェクトの実施に際して教訓となるように考えられる。

- (1) 受益者人口が非常に大きかったことがプロジェクトの意義を高めた
- (2) 信頼できる介入手段(ポリオワクチン接種)の存在により、確固たる成果が得られた。
- (3) ポリオ根絶は中国の国家目標であり、中国政府他各レベル政府の協力が得られ、これが成果の達成に繋がった。
- (4) 予防医学は、保健医療分野における二国間協力のテーマとして適切であった。
- (5) 全世界の5分の1の人口を占める中国でポリオフリーが達成されたことは、まさに奇跡であり、全世界からポリオ根絶を目指す関係者を勇気づけた。

<短期的提言>

プロジェクトの成果を確実にするために、引き続きプロジェクトで達成した実験室診断技術レベルの維持、ハイリスク地域を中心としたAFPサーベイランスの維持強化等を図る必要がある。

<長期的提言>

- (1) 中国政府及び各レベル政府は地球規模でポリオ根絶が達成されるまで、プログラムの維持強化に努める必要があり、このための政治的コミットと予算的処置を保証する必要がある。
- (2) EPIを強化し、サービスの質的向上を図る。
- (3) ポリオ根絶活動に引き続き、ワクチンによる予防可能な感染症のサーベイランスシステムおよびその機能の充実を図り、効果的な流行対策を促進する。

以上

表1. 野生株ポリオ患者数

	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年
江西	0	0	0	0	0
広西	0	0	0	0	0
四川	0	0	0	0	0
重慶	0	0	0	0	0
貴州	0	0	0	0	0
雲南	1 *	3 **	0	0	0
全国	1 *	3 **	0	0	0 ***

* 1 imported case from Myanmar in 1995

** 3 imported cases from Myanmar in 1996

*** up to July 31, 1999

表2. AFP報告率(/100,000)

	1995年	1996年	1997年	1998年
江西	1.41	1.26	1.08	1.33
広西	1.64	1.51	2.04	2.11
四川	1.55	1.45	1.24	1.59
重慶	-	-	1.02	1.43
貴州	1.48	1.76	1.98	1.63
雲南	1.41	1.95	2.37	1.99
全国	1.51	1.37	1.58	1.67

目標値 \geq 1/100,000(15歳以下の人口)

表3. 便検体適時採集率(%)

	1995年	1996年	1997年	1998年
江西	76	80	86	84
広西	79	84	86	85
四川	67	74	82	82
重慶	-	-	85	73
貴州	55	69	78	79
雲南	58	77	84	82
全国	75	83	87	87

*麻痺発症から14日以内に24時間間隔をあけて2検体を採集
目標値 \geq 80%

表4. ウィルス分離結果適時報告率(%)

	1995年	1996年	1997年	1998年
江西	71	86	97	95
広西	33	88	100	99
四川	39	53	87	91
重慶	-	-	-	69
貴州	15	70	95	97
雲南	48	57	99	94
全国	64	78	93	94

*検体到着後30日以内に下位防疫センターに結果を報告
目標値 \geq 80%

表5. 陽性標本を国家ポリオ実験室に送付する率(%)

	1995年	1996年	1997年	1998年
江西	100	100	100	100
広西	100	83	79	100
四川	-	82	100	82
重慶	-	-	-	67
貴州	17	64	56	76
雲南	57	27	92	100
全国	58	66	67	77

*ポリオウィルス陽性の標本を国家ラボに30日以内に送付
目標値 \geq 80%

表6. 国際機関による国家ポリオ実験室レビュー (1998年6月15日、16日)

国家実験室(Regional Reference Poliovirus Laboratory基準による)

総合判定:合格

- 1.ポリオ分離株型内鑑別結果の28日以内の還元率(合格ライン80%以上): 83%
- 2.地域レベル実験室熟達度試験(Proficiency Test) (合格ライン80%以上): 100%
- 3.Operating procedures and work practices (合格ライン90%以上): 96%

表7. OPV報告接種率(定期接種)

	1995年	1996年	1997年	1998年
江西	98.1	97.1	97.6	97.6
広西	97.4	94.5	93.6	97.5
四川	n.a.	n.a.	95.0	96.2
重慶	-	-	96.2	95.9
貴州	94.1	93.1	98.0	91.9
雲南	97.1	97.5	90.3	88.7
全国	n.a.	n.a.	96.9	97.1

* n.a. : not available

表8. OPV報告接種率(NID,SNID)

	95/96	96/97	97/98	98/99
江西	99.1/99.2	99.0/99.0	99.2/99.2	98.9/99.0
広西	97.7/98.1	96.9/97.4	96.8/97.0	97.1/97.7
四川	98.8/98.4	98.6/99.8	98.5/98.6	97.7/97.9
重慶	-	-	98.3/98.2	98.4/98.2
貴州	98.2/98.9	97.7/98.1	97.5/97.2	97.5/98.0
雲南	97.3/97.2	97.0/98.0	95.1/97.2	96.8/96.6
全国	97.6/99.6	98.2/98.6	97.9/98.1	98.4/98.5

表9. 衛生防疫站、衛生院、衛生室巡回指導回数

		省	地区	県	郷	村
南方	江西	5	15	17	14	2
	広西	9	26	21	13	1
	四川	6	15	17	1	0
	重慶	3	3	8	0	0
	貴州	14	26	32	32	21
	雲南	11	37	74	53	14
	小計	48	122	169	113	38
其他	山東	6	28	18	11	7
	河北	2	1	0	0	0
	吉林	2	3	4	2	0
	新疆	4	9	5	0	0
	チベット	2	5	8	2	0
	青海	1	2	2	2	2
	甘肅	1	3	3	3	3
	陝西	4	6	9	8	1
	山西	5	5	7	5	3
	広東	1	2	2	2	2
	海南	1	0	0	0	0
	小計	29	64	58	35	18
	合計		77	186	227	148

*ポリオ実験室への調査指導は除く(ポリオ実験室への指導は表15参照)

表10. 地区・県巡回指導カバー率

	訪問地区 (A)	地区数 (B)	カバー率 (A/B)	訪問県 (C)	県数 (D)	カバー率 (C/D)
江西	10	11	91%	16	86	19%
広西	14	15	93%	17	81	21%
四川	12	20	60%	16	146	11%
重慶	2	13	15%	8	27	30%
貴州	9	9	100%	29	79	37%
雲南	17	17	100%	51	122	42%
合計	64	85	75%	137	541	25%

(A):防疫センター訪問、病院調査等で1回以上訪問したことがある地区

(B):省にある地区数

(C):防疫センター訪問、病院調査等で1回以上訪問したことがある県

(D):省にある県数

表11. 病院調査回数

		省	地区	県	計
南方	江西	0	7	12	19
	広西	0	9	14	23
	四川	1	7	17	25
	重慶	1	3	8	12
	貴州	1	10	20	31
	雲南	3	23	45	71
	小計	6	59	116	181
其他	山東	1	6	10	17
	河北	2	1	0	3
	吉林	0	0	1	1
	新疆	1	7	5	13
	チベット	6	11	7	24
	青海	1	2	2	5
	陝西	0	2	0	2
	山西	1	2	3	6
	広東	0	2	3	5
	小計	12	33	31	76
合計		18	92	147	257

表12. 会議・セミナー支援実績(スキーム別)

		中堅技術者 養成費	其他	合計
		人数(回数)	人数(回数)	人数(回数)
全国会議		218 (3)	130 (2)	348 (5)
南方省	南方会議	174 (2)		174 (2)
	セミナー	2649 (31)	621 (28)	3270 (59)
其他地域	北方会議	200 (2)		200 (2)
	セミナー	471 (5)	1935 (23)	2406 (28)
合計		3712 (43)	2686 (53)	6398 (96)

表13. 会議・セミナー支援実績(地域・レベル別)

		省レベル 人数(回数)	地区レベル 人数(回数)	小型セミナー 人数(回数)	合計 人数(回数)	備考
全国会議					348 (5)	資料1
北方・南方会議					374 (4)	
南方	江西		80 (1)	70 (7)	150 (8)	資料2
	広西	120 (2)	470 (7)	70 (10)	660 (19)	
	四川	44 (1)	100 (1)		144 (2)	
	重慶		80 (1)		80 (1)	
	貴州	514 (6)		76 (7)	590 (13)	
	雲南	235 (2)	1411 (14)		1646 (16)	
	小計	913 (11)	2141 (24)	216 (24)	3270 (59)	
其他	山東	571 (4)	190 (3)		761 (7)	
	新疆		1225 (11)		1225 (11)	
	チベット		190 (5)		190 (5)	
	吉林		70 (1)		70 (1)	
	陝西	30 (1)			30 (1)	
	山西	100 (1)			100 (1)	
	海南	30 (1)			30 (1)	
小計	731 (7)	1675 (20)	0 (0)	2406 (27)		
合計		1644 (18)	3816 (44)	216 (24)	6398 (95)	

表14. 患者診察・接種率調査実績

		診察 人数	接種率調査 人数(回数)
南方	江西	0	122 (9)
	広西	87	177 (11)
	四川	1	60 (6)
	重慶	0	0 (0)
	貴州	115	504 (33)
	雲南	50	1889 (104)
	小計	253	2752 (163)
其他	山東	134	37 (7)
	新疆	19	
	チベット	6	18 (2)
	吉林		10 (2)
	山西	9	49 (3)
	小計	168	114 (14)
合計		421	2866 (177)

表15. ポリオ実験室訪問指導回数

		長期 専門家	短期 専門家
南方	江西	3	1
	広西	2	0
	四川	2	0
	重慶	4	2
	貴州	1	2
	雲南	2	2
	小計	14	7
其他	山東	2	0
	河南	1	1
	山西	1	0
	内蒙古	2	1
	遼寧	1	0
	吉林	1	1
	黒竜江	1	1
	浙江	1	0
	福建	1	0
	湖北	1	1
	湖南	2	1
	広東	1	0
	海南	2	1
	陝西	1	1
	甘肅	1	2
	青海	1	1
	新疆	1	1
小計	21	12	
合計		35	19

*詳細は資料4を参照

表16. 研修員受け入れ状況

		1997年	1998年	1999年	合計
国家 レベル	管理	1	2	1	4
	疫学	1	0	1	2
	実験室	0	1	1	2
省 レベル	疫学	1	0	1	2
	実験室	14	13	1	28
合計		17	16	5	38

*各省別の受け入れ状況は資料5参照

表17. 国際機関合同の会議・レビュー等

	参加回数	備考
国際会議(WPRO、ミャンマー・中国国境対策会議)	4	資料3
国際レビュー(国際機関合同の疫学・ラボのレビュー)	14	
全国セミナー	5	
其他(ハイリスク地域への調査・啓蒙活動)	6	

資料1. 全国、北方・南方会議

年	日程	地域	省	地区	活動概要	対応専門家	会議参加人数	スキーム	
								中堅養成	他
97	3/16- 3/22		福建	福州	全国ポリオ実験室セミナー	原、入山	83	中堅	
97	3/23- 3/25		湖北	武漢、宜昌	全国EPI(疫学)会議	千葉	60		他
97	5/4- 5/10	北方	河南	三門峡	北方五省連合ポリオ対策会議	千葉、入山、原、 松葉、小林	100	中堅	
97	5/26- 5/30	南方	江西	南昌	南方五省連合ポリオ対策会議	千葉、入山、原、 松葉、小林	74	中堅	
98	3/10- 3/13		北京	北京	全国EPI会議(疫学、ラボ共同開催)	小林、萩原	100	中堅	
98	5/9- 5/14	南方	重慶	重慶	南方六省市連合ポリオ対策会議	千葉、入山、原、 小林	100	中堅	
98	6/14- 6/17	北方	河北	承德	北方五省連合ポリオ対策会議	千葉、入山、原、 小林、疋田、高島	100	中堅	
99	3/15- 3/22		湖南	張家界	全国ポリオ実験室セミナー	原、千葉、入山	35	中堅	
99	3/30- 4/2		広州	広東	全国EPI(疫学)会議	小林	70		他
99	11月 (予定)	北方 南方	北京	北京	北方五省南方六省市連合ポリオ対策会議	千葉、入山、原、 小林		中堅	

資料2. 各省に支援したセミナー

年 日程	地域	省	地区	活動概要	対応専門家	セミナー		スキーム		備考
						参加人数	回数	中堅養成	其他	
96/12/22-		海南	西寧	省セミナー	千葉	30	1		他	
97/3/7-		新疆	ウルムチ、カシュガル他	WHO主催地区セミナー	千葉、帖佐	622	5		他	国際
97/4/22-	南方	雲南	紅河、文山	地区セミナー	松葉	257	2	中堅		
97/3/26-	南方	貴州	貴陽、黔南	国際レビュー、省セミナー	千葉	60	1		他	国際
97/4/30-	南方	貴州	遵義、六盤水銅仁	小型セミナー	疋田	60	6		他	
97/6/12-	南方	雲南	麗江、迪慶	地区セミナー	松葉	240	2	中堅		
97/6/9-	北方	山東	済南	省セミナー	千葉、小林	75	1	中堅		
97/6/25-	北方	山東	東栄	地区セミナー	小林	40	1		他	
97/7/19-	南方	江西	萍郷 鷹潭、他	小型セミナー	疋田	70	7		他	
97/7/23-	北方	山東	荷澤	地区セミナー	小林	50	1		他	
97/7/7-	南方	広西	百色、河池	小型セミナー	疋田、小林	70	10		他	
97/8/19-	南方	貴州	貴陽	省セミナー	千葉、黒岩	100	1	中堅		
97/8/18-	北方	山東	濰庄、台爾庄、蒼山他	地区セミナー	小林	100	1	中堅		
97/9/22-	南方	雲南	玉溪、峨山、新平、迪海	地区セミナー	松葉	80	2	中堅		
97/9/4-	南方	四川	成都、雅安、榮経、峨嵋	地区セミナー	千葉	100	1	中堅		
97/9/4-	南方	重慶	万県、奉節、巫山、巫溪他	地区セミナー	帖佐	80	1	中堅		
97/9/17-	南方	広西	北海、欽州、凭祥、龍州他	地区セミナー	帖佐	200	4	中堅		
97/10/15-	南方	雲南	昆明	省セミナー	松葉	165	1		他	
97/10/22-	南方	雲南	昭通、曲靖	地区セミナー	松葉	217	2	中堅		
97/10/12-	南方	貴州	貴陽	省セミナー	松葉	100	1	中堅		
97/10/22-	南方	貴州	貴陽	省セミナー	小林	60	1	中堅		
97/10/15-	南方	広西	南寧、龍州	省・地区セミナー	小林	210	3	中堅		
97/10/31-		山西	太原	省セミナー	千葉、飛田	100	1		他	
97/11/21	北方	山東	済南	省セミナー(SNID対策)	小林	200	1		他	
98/3/28-		新疆	庫爾勒、カシュガル	WHO主催地区セミナー	京極	263	2		他	国際
98/3/28-		新疆	ウルムチ、奎屯、伊寧	WHO主催地区セミナー	千葉、小林	280	3		他	国際
98/4/14-	南方	雲南	大理、楚雄、昆明	地区セミナー	小林	215	2	中堅		
98/6/16-	南方	江西	吉安、峡江、尋烏、信豊他	地区セミナー	疋田、高島	80	1	中堅		
98/6/29-		吉林	延吉、長白、長春	地区セミナー	千葉	70	1		他	
98/6/1-	北方	山東	済南	省セミナー	千葉	76	1	中堅		
98/6/18-	南方	広西	貴港、梧州、藤県、桂林他	地区セミナー	千葉、南	70	1	中堅		
98/7/11-	南方	雲南	臨滄、思茅	地区セミナー	小林	206	2	中堅		
98/8/18-		チベット	ラサ、日喀則	地区セミナー	小林	50	1		他	国際
98/8/15-	南方	広西	防城、東興	地区セミナー	千葉	110	1		他	
98/10/6-		新疆	カシュガル、塔什、庫爾干他	地区セミナー	千葉、山本	60	1		他	
98/10/26-		陝西	西安、延安	省セミナー	千葉	30	1		他	
98/11/12-	南方	雲南	徳宏、昆明	省セミナー	小林	70	1		他	
98/12/3-	南方	貴州	畢節、六盤水、貴陽	国際レビュー、小型セミナー	小林、永井	16	1		他	国際
99/4/9-	南方	貴州	貴陽	省セミナー	村上	194	2	中堅		
99/4/20-		チベット	ラサ、日喀則、樟木	地区セミナー	村上、千葉	140	4		他	国際
99/6/5-	南方	雲南	保山、怒江、昆明	地区セミナー	小林	196	2	中堅		
99/7/5-	北方	山東	済南	省セミナー	千葉、原	220	1	中堅		
99/6/13-	南方	四川	成都	省セミナー	小林	44	1	中堅		
合計						5676	86	35	51	

*備考「国際」とは国際機関との共同支援のセミナーのこと

資料3. 国際機関合同の会議・レビュー等

	年	日程	地域	省	地区	活動概要	対応専門家
国際会議	97	11/2-11/8		ミャンマー	ラシオ	ミャンマー・中国国境対策会議	松葉
	97	7/16-7/19		雲南	昆明	ミャンマー・中国国境対策会議	千葉
	98	10/5-10/12		雲南	昆明、徳宏、	ミャンマー・中国国境対策会議	中野
	98	11/2-11/7		フィリピン	マニラ	WPRO技術諮問会議	千葉
国際レビュー	97	3/26-4/3	南方	貴州	貴陽、黔南	国際レビュー(EPI全般)	千葉
	97	5/11-5/24		山西	晋城、長治	国際レビュー(EPI全般)	松葉
	97	10/17-10/21		吉林、遼寧、黒龍江	長春、沈陽、ハルビン	国際レビュー(ラボ)	原、宮村
	97	11/30-12/15	南方	雲南	西双版纳、思茅、昆明	国際レビュー(SNID)	小林
	97	12/3-12/12		吉林	長春、延辺、通化	国際レビュー(SNID)	千葉
	98	5/19-5/27	南方	四川	達川、南充	国際レビュー(EPI全般)	小林
	98	5/19-5/27		陝西	西安、安康	国際レビュー(EPI全般)	千葉
	98	10/15-10/22		江西、湖南、広西、海南	南昌、長沙、南寧、海口	国際レビュー(ラボ)	原
	98	12/3-12/11	南方	江西	九江、樟州	国際レビュー(SNID)	千葉
	98	12/3-12/12	南方	貴州	畢節、六盤水、貴陽	国際レビュー(SNID)	小林、永井
	99	5/9-5/25		広州	茂名、珠海	国際レビュー(EPI全般)	疋田
	99	5/11-5/25		青海	海東、黄海	国際レビュー(EPI全般)	千葉
	99	5/28-5/30	北方	河南	鄭州	国際レビュー(ラボ)	吉倉、原
	99	5/31-6/2		湖北	武漢	国際レビュー(ラボ)	吉倉、原
全国セミナー	97	3/16-3/22		福建	福州	全国ポリオ実験室セミナー	原、入山
	97	3/23-3/25		湖北	武漢、宜昌	全国AFPセミナー	千葉
	98	3/10-3/13		北京	北京	全国EPIセミナー(疫学、ラボ共同開催)	小林、萩原
	99	3/15-3/22		湖南	張家界	全国ポリオ実験室セミナー	原、千葉、入山
	99	3/30-4/2		広州	広東	全国EPIセミナー	小林
其他	96	12/4-12/11	南方	四川	綿陽、重慶、宜賓	国際チームSNID、病院調査、重慶独立関連(疫学、ラボ)	千葉、原
	97	3/7-3/19		新疆	ウルムチ、カシュガル、他	国際機関合同セミナーサーベイランス	千葉、帖佐
	98	3/28-4/6		新疆	庫爾勒、カシュガル	国際機関合同セミナーサーベイランス	京極
	98	3/28-4/7		新疆	ウルムチ、奎屯、伊寧	国際機関合同セミナーサーベイランス	千葉、小林
	98	8/18-8/30		チベット	ラサ、日喀則	国際機関合同セミナーサーベイランス	小林
	99	4/20-5/5		チベット	ラサ、日喀則、樟木	国際機関合同セミナーサーベイランス	村上、千葉

資料4. 省ポリオ実験室調査・指導状況

年	日程	地域	省	活動概要	対応専門家	C/P	備考
96	12/4	南方	四川	前回調査での指摘事項の改善確認	原		国際
96	12/7-12/9	南方	重慶	直轄市昇格に伴う実験室対策	原	張	
97	2/26	北方	山東	検査体制の確認	原		
97	3/3	南方	江西	新庁舎移転後の実験室整備状況確認	原		
97	3/20		福建	実験室機器類の整備状況調査	原	張	国際
97	5/30	南方	江西	新庁舎移転後の実験室整備状況確認	原		
97	6/11-6/26	南方	貴州	ウイルス診断技術指導	米山		
97	6/11-7/4	南方	江西	ウイルス診断技術指導	吉田		
97	7/25	南方	雲南	巡回指導調査団に同行	原		
97	7/28	南方	四川	巡回指導調査団に同行	原		
97	8/7-8/31	南方	雲南	ウイルス診断技術指導	吉井		
97	10/14-10/15		吉林	第2回国際実験室レビュー	原		国際
97	10/16-10/18		遼寧	第2回国際実験室レビュー	原		国際
97	10/19-10/20		黒龍江	第2回国際実験室レビュー	原		国際
97	11/27-11/28		山西	国際レビュー不合格原因調査・指導	原	張	
98	3/6-3/7	南方	重慶	直轄市昇格に伴う実験室対策	原、萩原		
98	3/16-3/17		海南	国際レビュー条件付き合格原因調査・指導	原、萩原		
98	3/19-3/20		湖南	国際レビュー条件付き合格原因調査・指導	原、萩原		
98	4/28-5/1		新疆	国際レビュー不合格原因調査・指導	原、吉倉	張	
98	5/2-5/5		青海	国際レビュー不合格原因調査・指導	原、吉倉	張	
98	5/12	南方	重慶	実験室整備の確認	原	張	
98	8/28-8/29		内蒙古	国際レビュー対応策の検討	原	張	
98	9/10-9/25		新疆	新疆自治区、青海省ポリオ実験室技術指導	萩原		
98	9/26-9/28		山西	省ポリオ実験室現状調査、技術指導	萩原、入山		
98	10/15-10/16		江西	第3回国際実験室レビュー	原	張	国際
98	10/17-10/18		湖南	第3回国際実験室レビュー	原	張	国際
98	10/19		広東	ポリオ実験室の実状調査	原	張	国際
98	10/20		広西	第3回国際実験室レビュー	原	張	国際
98	10/21		海南	第3回国際実験室レビュー	原	張	国際
98	11/12-11/14	南方	貴州	国際レビュー対応策の検討	原、吉井		
98	11/15-11/16	南方	雲南	国際レビュー対応策の検討	原、吉井		
98	11/18	南方	重慶	国際レビュー対応策の検討	原		
98	11/17-11/22	南方	重慶	ウイルス診断技術指導	吉井		
98	11/20	南方	広西	国際レビュー仮合格原因調査・指導	原		
99	3/25-3/27		浙江	国際レビューを兼ね技術指導	原	張	
99	5/27-5/29	北方	河南	国際レビューを兼ね技術指導	原、吉倉	張	国際
99	5/30-6/1		湖北	国際レビューを兼ね技術指導	原、吉倉	張	国際
99	7/5-7/6	北方	山東	国際レビュー対応策の検討	原		
99	7/25-7/29		甘肅	国際レビューを兼ね技術指導	原、吉井、萩原	張	
99	7/31-8/2		陝西	国際レビューを兼ね技術指導	原、吉井	張	
99	8/4-8/6		黒竜江	国際レビューを兼ね技術指導	吉井	張	
99	8/7-8/9		吉林	国際レビューを兼ね技術指導	吉井	張	
99	8/11-8/13		内蒙古	国際レビューを兼ね技術指導	原、吉井	張	

* C/P : 同行したカウンターパート

**備考「国際」とは国際機関との共同もしくは委託で行われたもの

資料5. 省別研修員受け入れ状況

	1997年		1998年		1999年		合計		疫学と 実験室 の合計
	疫学	実験室	疫学	実験室	疫学	実験室	疫学	実験室	
江西*	0	1	0	0	1	0	1	1	2
広西*	0	0	0	1	0	0	0	1	1
重慶	0	1	0	1	0	0	0	2	2
四川*	0	1	0	0	0	0	0	1	1
貴州*	1	0	0	1	0	0	1	1	2
雲南*	0	1	0	0	0	0	0	1	1
山東**	0	0	0	0	0	0	0	0	0
河北*	0	0	0	0	0	0	0	0	0
河南	0	0	0	1	0	0	0	1	1
江蘇*	0	0	0	0	0	0	0	0	0
安徽	0	1	0	0	0	0	0	1	1
北京	0	1	0	0	0	0	0	1	1
天津	0	0	0	1	0	0	0	1	1
山西	0	1	0	0	0	0	0	1	1
内モンゴ	0	0	0	1	0	0	0	1	1
遼寧	0	0	0	1	0	0	0	1	1
吉林	0	0	0	1	0	0	0	1	1
黒竜江	0	1	0	0	0	0	0	1	1
上海	0	1	0	0	0	2	0	3	3
浙江	0	1	0	0	0	0	0	1	1
福建	0	1	0	0	0	0	0	1	1
湖北*	0	0	0	0	0	0	0	0	0
湖南	0	1	0	0	0	0	0	1	1
広東	0	1	0	0	0	0	0	1	1
海南	0	1	0	0	0	0	0	1	1
陝西	0	0	0	1	0	0	0	1	1
甘肅	0	0	0	1	0	0	0	1	1
青海	0	0	0	1	0	0	0	1	1
寧夏	0	0	0	1	0	0	0	1	1
新疆	0	0	0	1	0	0	0	1	1
チベット	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	14	0	13	1	2	2	29	31

*各1名の実験室スタッフが96年以前に研修員として受け入れられた。

**2名の実験室スタッフが96年以前に研修員として受け入れられた。

資料6. ポリオ実験室設備支援状況

	クリーンベンチ	CO2 孵卵器	普通孵卵器	高圧気滅菌器	乾熱滅菌器	超低温冷凍庫	普通冷凍庫	冷蔵庫	倒立顕微鏡	冷却遠心器	電子天秤
国家ラボ	●●●	●●●	●	●●●	●	●	●●●●	●●●●	●○	●●●	●●●
江西	○△	△	-	○	○△	△	○△△	△△	●	-	△
広西	○△	△	-	○○	△	△	○△△	△△	-	●	△
重慶	○△	△	-	○△	△	△	○△△	△△	-	○	△
四川	○△	△	-	○○	●	△	○△△	△△	-	-	△
貴州	○△	△	-	○	●	△	○△△	△△	○	-	△
雲南	○△	△	○	○	△	△	○△△	○△△	-	-	○△
山東	●△	●△	●○	●●	●△	●	●	●	●	○	●△
河北	●△	●△	○	●●	●△	●	●△△	△△	-	-	●△
河南	●△	●△	○	●●	●△	●	●△△	△△	-	-	●△
江蘇	●△	●△	○	●●	●△	●	●△△	△△	-	-	●△
安徽	●△	●△	○	●●	●△	●	●△△	△△	-	-	●△
北京	△	△	-	△	△	△	△△	△△	-	-	△
天津	△	△	-	△	△	△	△△	△△	-	-	△
山西	△	△	-	△	△	△	△△	△△	-	-	△
内モン	△	△	-	△	△	△	△△	△△	-	-	△
遼寧	△	△	-	△	△	△	△△	△△	-	-	△
吉林	△	△	-	△	△	△	△△	△△	-	-	△
黒龍江	△	△	-	△	△	△	△△	△△	-	-	△
上海	△	△	-	△	△	△	△△	△△	-	-	△
浙江	△	△	-	△	△	△	△△	△△	-	-	△
福建	△	△	-	△	△	△	△△	△△	-	△	△
湖北	△	△	-	△	△	△	△△	△△	-	-	△
湖南	△	△	-	△	△	△	△△	△△	-	-	△
広東	△	△	-	△	△	△	△△	△△	-	-	△
海南	△	△	-	△	△	△	△△	△△	-	-	△
陝西	△	△	-	△	△	△	△△	△△	-	-	△
甘肅	△	△	-	△	△	△	△△	△△	-	-	△
青海	△	△	-	△	△	△	△△	△△	-	-	△
寧夏	△	△	-	△	△	△	△△	△△	-	△	△
新疆	△	△	-	△	△	△	△△	△△	-	-	△
チベット	△	△	-	△	△	△	△△	△△	-	-	△

*国家ラボにはこの他、PCR、塩基配列分析器(シーケンサ)を導入した

- : プロジェクト前期(91-96年)供与機材
- : プロジェクト後期(97-99年)供与機材
- △: 無償資金協力

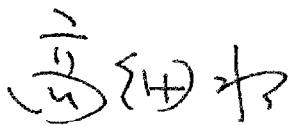
中华人民共和国控制脊髓灰质炎项目 联合评价报告书

日本国际协力事业团组织的以（财）国际保健医疗交流中心蚁田功理事长为团长的项目结束评价调查团（以下称“调查团”）在项目即将结束之际对项目执行情况进行评价，并为探讨、制定今后技术援助方针，于1999年9月14日至22日访问了中华人民共和国（以下称“中国”）。

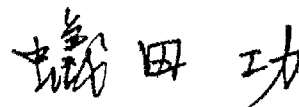
调查团在中华人民共和国期间，为实施项目评价，就有关业务进展情况及具体合作内容与卫生部为代表的中方有关人员交换了意见并进行了一系列协商。

调查团与中方有关人员的协商结果经双方确认并归纳附后。

1999年9月21日
于北京市



高细水
国际合作司副司长
卫生部
中华人民共和国



蚁田 功
评价调查团团长
国际协力事业团
日本国

附件:

1、 确认联合评价报告书

1-1 调查团与中国卫生部确认了共同编制的评价报告书。

1-2 以下是联合评价报告书的评价结果。

- (1) 项目取得了预期成果。其结果将在项目合作期限结束之前达到预期的项目目标。
- (2) 适时的投入使项目有效地得以实施。
- (3) 项目的效果涉及全中国。
- (4) 合理的项目计划对中国控制脊髓灰质炎十分有效。
- (5) 达到了可以独立发展的水平。

1-3 总结

经中日两国政府的共同努力，项目得以有效地实施，达到了预期的目的。其结果，中国政府今后能够继续维持目前的控制脊髓灰质炎工作。

2、 建议

为了确保项目取得的成果，有必要继续维持项目所达到的脊髓灰质炎实验室诊断技术水平，不断维持和加强以高危地区为中心的AFP监测工作。

附：联合评价报告书

